



カラーでご覧になりたい方は、錦小HP「学校だより」<http://www.ueis.ed.jp/school/nishiki/>までHPでは、学校だよりで紹介できなかった写真も掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

新品のバスケットゴールが設置されました

宇都宮市では、来年開催予定の東京五輪の新種目として採用され、世界的な人気が一段と高まっている3人制バスケットボール「3×3（スリーバイスリー）」の普及に力を入れています。その一環として、市内の小中学校に、専用ボールを配付したり、専用ゴールを設置したりして、「3×3」のまちを目指しています。

先日（6月19日）、本校にも「3×3」の専用ゴールが設置されました。校庭南側のろくぼくとサッカーゴールの間付近で、児童たちが安全に遊ぶことができる場所です。

バスケットゴールの使用学年につきましては、安全面を考慮し3～6学年とし、曜日ごとに使用学年が割り振られています。1，2年児童にとっては、体育の授業でバスケットボール型の学習内容が位置付けられていないことや上から落ちてくるボールで突き指や顔面へのけがなどにつながる恐れがありますので、かわいそうですが使用はできないこととしました。また、3年生は、体育でバスケットボール系の運動を未学習のまま遊ぶと、正しく安全な運動の仕方が身に付いていないのでけがにつながる危険性があります。そのため、体育の「ポートボール」の学習後に使用できることとしました。

使用の仕方を各学級で指導してから、さっそく休み時間には、児童たちが集まり、ボールを使ってドリブルしたりゴールに向かってシュートしたりと楽しそうに遊ぶ姿が見られました。遊具が増えることにより、遊びにも多様性が出て、とてもよかったと思います。「3×3」への関心も高まりそうな気配です。



「朝の学習の時間」に「授業」を行っています～モジュール学習～

6月19日付けの文書で保護者の皆様にお知らせしたとおり、4，5月に授業を実施できなかった分の授業時数を確保するために、これまで集会やドリル等の学習を行っていた15分間の「朝の学習の時間」を使い、各教科等の「授業」を行っています。15分という短い時間ですが、3回分を合わせて45分の1単位授業となります。

児童たちは、最初のうちは、やや戸惑いが見られましたが、事前にどんな教科のどんな学習を行うのかを教師側から示しているため、見通しをもって取り組めるようになっていきます。

児童たちの集中力が持続する時間は15分という説がありますが、その15分間の中で、教師の指導をしっかりと受けながら、児童が見通しと意欲をもち、実りある学習ができるように努めてまいります。なお、1，2年生は、発達段階を考慮した学習内容や活動とし、負担にならないよう配慮しております。



おじゃまします！！教室訪問 ～1年1組～

第1回目は、1年1組です。担任は、T先生です。国語の時間にお邪魔しました。

まず授業の導入として、児童の語彙を増やすことを主なねらいとして、「『あ』が付くものは何でしょう。」というようなクイズを児童が皆に出す活動がありました。黒板の前に立ち、はっきりとした声で問題を出す児童、「はい」と元気よく大勢の児童から手が挙がり、指名された児童は堂々と自分の考えを発表します。先生は、児童の活動に対して、「姿勢がいいですね」「言い方が上手でしたね」「問題の出し方がいいですね」などそれぞれの児童の活動のよさを取り上げてほめます。全員の児童が興味・関心をもって楽しみながら活動に取り組み、語彙を広げたり、皆の前でしっかりと発表したりする技能を身に付けているようでした。まっすぐぴんと真上に手を挙げる児童がほとんどで、知的好奇心の高まりとともに、1年1組の児童たちが短期間のうちに基本的な学習技能・規律をしっかりと身に付けていることにも感心しました。



導入の活動後、『とんとことん』という物語教材の学習に入りました。まず、先生は、登場人物やおおまかなお話の確認をした後、「おはなしのじゅんぱんをしよう」というめあての紙を黒板に掲示し、本時の目標を児童に意識させました。「主体的な学び」のために学習の目標を確かめ、見通しをもたせる大切な指導です。

次に音読です。まず、先生が読んで後について読む活動がありました。その次は、「まる読み」をするか「たけのこ読み」をするかと先生は児童に尋ね、学習活動を児童が選べるようにさせました。児童たちは、「たけのこ読みがいい」（登場人物ごとに立って読む方法）という声が多く挙がり、全員の児童がそのやり方で意欲満々に音読に取り組む姿が見られました。1年生といえども多様な学習活動を経験しており、それらから児童が学習方法を選択し、主体的に意欲をもって取り組む姿に素晴らしいと感じました。

次に、先生は、4枚の場面絵をばらばらに黒板にはり、児童に順序を考えさせました。児童たちは、教科書を読み返し、場面絵を見つめながら、じっくりと物語の順番を考える本時の中心の学習に取り組みました。先生は、児童の様子を見ながら必要に応じて助言をします。その後、全体での確認の活動に進みました。児童は、黒板の前に出て場面絵を動かしながらの発表です。ここでも、指名された後の返事や皆の方を向いての分かりやすい声での発表など、細やかな、さりげない指導が大変素晴らしく、また、誤った考えを発表した児童に対しては、「ありがとう。〇〇さんの発表で皆が考えられるね。大丈夫だよ。」と優しいフォローがあり、児童も笑顔になるなど、児童達が安心して学習に取り組める雰囲気、場づくりがよくできていることが分かりました。

そうした受容的で温かな雰囲気の中、ある児童が、「もぐらは土の中にいるのに、なぜお昼とか、朝とかかわるのだろう？」と素朴な疑問を発表しました。すると、先生は、よいことに気付きましたねと児童をほめた後、「皆はどう思いますか？」と全体に投げかけ、ある児童が「もぐらもときどき外を見るのではないか」と発言しました。こうした姿は、児童たちがしっかり物語の世界にひたっている、集中している証拠であると思います。

それから、先生は、「それではプリントで確認していきましょう」と言い、プリントを配付しました。児童たちは、物語の順番の番号をプリントに書き確かめたり、物語の場面絵に色塗りをしたりする活動となりました。こちらも喜々として意欲満々で取り組んでいました。「話す・聞く」「書く」「読む」という国語の内容構成がバランスよく取り入れられています。

1年生にとっては、45分は長いと思われませんが、T先生の児童の発達段階を考慮した多様な学習活動の展開や児童の興味・関心を高める指導、支援により、充実した学習活動になっていると感じました。

T先生は、本校では、1学年主任のほか、学習指導主任として教員の指導力向上のための研修や児童の学力向上のための取り組みも先頭に立って行っています。また、宇都宮市教育委員会の教科指導員に任命され、他校の教員の指導を行っている経験もある教員です。T先生とともに、1年1組の児童たちがこれからもさらにぐんぐん力を付け、より一段と素晴らしい児童に育つことを大いに期待しています。



※ 読みやすさを考え、教員の呼称は、「教諭」ではなく、「先生」とさせていただきました。

※ 地域・ホームページ用の学校便りでは、不特定多数の人の目に触れることもあるため、教職員の名前は、イニシャルにし、顔写真は、カットしております。ご了承ください。